

# Accounts of Materials & Surface Research

## 「材料表面」発刊に期待する 一雑誌「表面」を回顧しつつ



東京理科大学名誉教授・北原 文雄

この度二次情報誌「表面」の廃刊のあと、これを引き継ぐ形で新しくWeb雑誌「材料表面」が刊行されるに至ったことを聞き暗夜に光明を見る思いがしています。

この機に、ご参考のためとも思い「表面」発刊に関係した一人として当時を回顧してみたいと思います。

私は全くタッチしていませんでしたが、「表面」刊行の少し前まで、関西のコロイド懇話会という機関からコロイド関係の雑誌(名前は覚えていません)が発行されていました。何らかの理由で刊行が難しくなり、関東の方で引き継いでいこうということになったのだそうです。

関東の先生方、特に浅原照三、佐々木恒孝、立花太郎の三先生が中心で、「表面談話会」という機関を立ち上げ、二次情報の新雑誌を作ろうということになりました。広信社という出版社が出版の実務を担当することになったのです。三先生の下で編集の下働きをするため当時若手であった東大の早野茂夫先生と私が駆り出されたわけです。

三先生、早野、北原、八木茂社長が会合を繰り返し、「表面」と命名された雑誌が発刊されることになりました。1963年9月のことでした。実際の編集の実務は我々二人と出版社の編集者一人で、みな編集の素人でした。

編集方針、それに沿っての内容の決定、執筆者の決定などは新たに委嘱した委員を含めた編集委員会で決定、依頼する。最終原稿の割り付けから出版までは出版社の仕事、その間の原稿の検討、査読などの仕事、校正などは早野さんと私の担当でした。雑誌の刷り上がりまでの1-2週間は二人で遅くまでそれにかかりきりになることもありました。原稿は手書きのころ、慣れない仕事で、出版社のサポートも頼りなく苦労した思い出が湧いてきます。

創刊当時賑々しく内容も豊富であった本誌でした。編集委員会が張り切っている案が出てきました。二次情報誌ですから、解説はもちろん中心の一つですが、目玉にダイジェストという欄が設けられました。これは直近の雑誌から興味あるテーマを選んで1頁にまとめるという抄録速報欄で、関係ある28の分野について担当者を決めておいて直接執筆または依頼をするというやりかたでした。これが毎月続くのですから圧巻でした。その他表1に示した項目がありました。

しかし年月が経つにつれてだんだんにやせ細っていきました。その一例を表中に示しました。なぜこうなってしまったのか？いろいろのことが考えられます。先生方が忙しくなり、編集委員会が十分に機能しなくなったこと、出版社の担当者が素人で、その上たびたび担当者が変わって人が育たなかったことなどがあったのかと思います。

今回 Web ジャーナルとして生まれ変わることを聞き大変うれしく思うとともに、前車の轍を踏むことなく永続発展することを祈っております。普通の雑誌、図書の出版が苦難の道を歩み始めている情報革命のこのごろです。Web として生きていくことは適切な判断だと思います。私ネット時代には不適な老人で Web ジャーナルのことはわかりませんが、時代に合った生き方であることは何となくわかります。読者も多くなるでしょう。読者からのレスポンスも早く、その対応もはやくいき、双方向の良い動きもできるでしょう。最近の早い科学・技術の発展に即応していくことが可能でしょう。よいスパイラルができていくことを期待し祈っている次第です。

#### 評1 「表面」誌の初期 5 年ごとの変化

	創刊号 (1963) 頁	第 5 卷 11 号 (1967) 頁	第 10 卷 11 号 (1972) 頁
本文	96	72	64
広告	20	12	7
総説	1(項目)	1	1
解説	5(項目)	3	3
講座	2(項目)	0	0
翻訳	0	3	1
実験法ノート	2(項目)	0	0
随筆	2(1 項目)	0	0
ダイジェスト	23	8	2
特許抄録	1	0	0
海外トピックス	1	0	0
新製品紹介	2	0	0
その他			